

## 歴史(明治時代①・始まり編)

新政府は、日本を近代国家にするため、さまざまな改革を進めた。これらの改革と、それにともなう社会の動きを①\_\_\_\_\_という。新政府はまず、1868年に新しい政治の方針(②\_\_\_\_\_ )を定めた。1869年には、土地と人民を政府に返上させた(③\_\_\_\_\_ )が、あまり効果がなかった。そこで、1871年、藩を廃止して県を置いた(④\_\_\_\_\_ )。同時に政府のしくみも強化され、倒幕の中心勢力だった少数の公家や薩摩、長州、土佐、肥前の4藩の出身者たちが政治の実権をにぎった(⑤\_\_\_\_\_ 政治)。また、江戸時代の厳しい身分制度を廃止し、天皇の一族を⑥\_\_\_\_\_ 族、もとの公家・大名を⑦\_\_\_\_\_ 族、武士などを士族、農民や町民を平民とする身分制度をつくった(⑧\_\_\_\_\_ )。そして、1871年には、えた身分、ひにん身分などの呼び名を廃止し、平民と同じとする⑨\_\_\_\_\_ 令が出されたが、民衆の意識はあまり変わらなかった。

